



音声変化 6つの法則

音声変化の6つの法則

- ① 連結
- ② 脱落
- ③ ラ行化
- ④ 弱形
- ⑤ 同化
- ⑥ 短縮

音声変化には
法則があります

楽に発音するために
自然とおこる変化です

リスニングカアップのために
音読しながら
少しずつ慣れていきましょう

連結（リンキング）

語尾の子音と語頭の母音がつながる

例)

mess **s** a round

メツサラウンド

a**s** a result

アザ リザルト

keep **p** it

キーピイツ

come **e** on

カモン

find **d** out

ファインダウト

half **a**n **h**our

ハーファンナワー

脱落

同じもしくは似た子音が連続するときは2つ目だけ発音する

1つ目は言おうとするが言わずに息を止めて小さい「ツ」が入るイメージ

例)

take care

テイツケア

at times

アツタイムズ

get to

ゲットウ

wish she

ウィツシー

need to

ニー (ツ) トウ

脱落

語尾の子音(破裂音)は省略されることがある

破裂音(t,d,p,b,k,g)が語尾にきたとき

例)

all right**t**

about**t**

did**d**

help**p** me

come back**k** to me

ラ行化

くだけた発音では「タ」行「ダ」行が「ラ」行になる

tかdが母音に挟まれた時「ら行」の様な音になる。
tが母音とlに挟まれたときにも、同じ音の変化が起こる

例)

water	ワラー
later	レイラー
little	リロウ
get up	ゲラップ
out of	アウロブ



母音に挟まれた [t] の発音→
[l] or [d] になる

water ワーラー

同様に

toやdoが「ル」と発音されることもある

弱形

冠詞や前置詞（機能語）は弱く短く発音される

センテンスの中であまり重要な内容を示さない
代名詞、助動詞、be動詞、冠詞、接続詞、前置詞、関係詞は
弱くあいまいに発音されます。脱落することもあります。

冠詞	an, a, the
前置詞	of, at, in, on, to, for
接続詞	and, or, so, but, that
代名詞	I, you, he, she, they, it, who, that
be動詞	is, am, are, was, were
助動詞	can, will, have, has, had, do, does, did

これにより
英語特有の
波打つような
強弱のリズムが
生まれます

he, his, him, herなどの
「h」は発音されない
こともあります

同化

隣り合う単語が全く新しい音を作る音声変化です

「子音+y」

単語の最後の子音と次のyが同化

miss you (ミツシュー)

was your (ワヂュア)

did you (ディヂュー)

get you (ゲツチャー)

くだけた会話で起こる変化

want to → wanna (ワナ)

going to → gonna (ガナ)

got to → gotta (ガダ)

I've got to → I've gotta → I gotta go.

短縮

2つの単語（特に「主語」と「be動詞や助動詞」）
がくっついて、さらに音が省略され短くなる

例

I will → I'll

I am → I'm

He will → He'll

should have → should've

音声変化が起こる理由

発音しやすいから
時間の短縮になるから

日本語にもあります！

体育館（たいいくかん） → たいいくかん

水族館（すいぞくかん） → すいぞっかん

音声変化の法則を覚えて自分でも発音できるように練習
するとリスニング力がアップするだけでなく
スピードに乗って楽に音読ができるようになります